

○計画期間：平成25年4月から平成30年3月まで（5年間）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点（平成27年3月31日時点）の中心市街地の概況

当市は、第5次大野市総合計画（計画期間；平成23年度～32年度）において大野市の将来像を「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」とし、「人が元気」「産業が元気」「自然が元気」「行財政改革」の4つの柱、36の基本施策を定めている。その基本施策の一つに中心市街地の活性化を位置づけており、400年以上前から残る城下町の町並みは本市の宝であり顔であることから、多様な人々が集う、活気に満ちた魅力あるまちに再生することを目指している。

本市の中心市街地は、第1期計画に位置づけた「越前おおの結ステーション」や「城下町東広場」などの整備効果により、七間通りを中心ににぎわいを創出している。一方で、五番通りなどへの人の流れは依然弱く、中心市街地全体への波及効果は限定的となっている。

第2期大野市中心市街地活性化基本計画は平成25年3月に認定を受け、2年目となった平成26年度は数値目標達成に向けた各種取り組みを推し進めた。

まず、中心市街地活性化のけん引役となるまちづくり会社「株式会社 結のまち越前おおの」は設立以来、まちなかを散策しながら飲食店等で大野の魅力を体験できる「越前おおの食べ歩き・見て歩きマップ事業」に取り組んでおり、さらに昨年6月からは、お店に足を運ぶきっかけづくりとして、まち講座「匠の勧め@結の故郷」を開始。本年3月末までに計255講座を企画するなど、個店の魅力アップに向けた取り組みを進めている。合わせてタウンマネージャーの指導・助言のもと、既存店舗の改修計画や空き地・空き店舗の利活用などを行っており、市は事業化に向けた取り組みなどに対し「民間まちづくり支援事業」を実施している。

交流人口の増加に関しては、昨年3月21日から本年2月8日までを期間とする「結の故郷（ゆいのくに）発祥祭事業」を官民一体で開催し、「結の故郷」を全国に発信することで誘客拡大を図った結果、関連施設の年間入込み客数（中心市街地主要4施設）が大きく増加するなど効果が表れた。さらに、まちなか遠足や学生合宿の誘致、滞在型観光企画の提案による観光バスのまちなかへの誘導、市内に4つある酒蔵を巡りパーツを集めてオリジナル酒枡を作る「酒枡コレクションラリー」の実施、新たに開館する「武家屋敷旧田村家」を含めたまちなか散策ルートの設定などを複合的に実施することによりこの効果をさらに高め、交流人口の増加につなげていく。

2. 平成26年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成26年度は、第2期大野市中心市街地活性化基本計画掲載事業の「越前おおのおもてなし事業」や商店街が連携した「おもてなし商業エリア創出事業」、「結の故郷発祥祭事業」などの実施により、中心市街地への観光客及び市民の入込数が増加しており、主要4施設の入込数および

まちなか循環バス・乗合タクシー利用者数は前年を上回っている。

特に、年間を通じ実施した「結の故郷発祥祭事業」、「おもてなし商業エリア創出事業」等の効果もあり主要関連4施設への入込数は前年と比べ24%増加しており、第1期大野市中心市街地活性化基本計画で整備された「越前おおの結ステーション」及び「城下町東広場」を起点とする中心市街地へ回遊する仕組みが浸透してきたといえる。

まちなか歩行者・自転車の通行量は前年を下回ったが、基準値の平成23年度との比較では、38%増となっており、中心市街地への入込は堅調に増加しているといえる。

まちなか循環バス・乗合タクシーの利用者数は、前年から4%程度増加しており、「高齢者ゆうゆう購買促進事業」の実施などにより、高齢者等の交通弱者が中心市街地へ足を運ぶ手段として機能しているといえる。

また、民間の動きとして、まちづくり会社（株）結のまち越前おおのでは、個店の魅力を伝えるまち講座「匠の勧め@結の故郷」を実施するなど更なる展開が図られている。

越前おおの中心市街地活性化協議会が中心となり、次代を担う若者や若手後継者によるまちづくりを進めるため立ち上げた「越前おおの美濃街道プロジェクト」では、「歴史の道再生事業」や半夏生サバと魚屋座敷文化を組み合わせた「魚屋さんでおおの膳」事業などにも取り組んでいる。また今後は、市内にある蔵を巡るツアーを計画するなど、魅力ある取組みを展開していく動きも出ている。

こういった動きを当協議会としても支援していくこととしており、前年の成果を踏まえ、ブラッシュアップを図りながら着実に事業が推進されているものと考えている。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
まちなか観光による交流人口の増加	関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)	136,093人 (平成23年)	144,000人 (平成29年)	<b>174,471人</b> (平成26年)	①	①
商店街を中心としたまちなか生活の充実	1日当たりの歩行者通行量(休日)春・秋の合計値	4,907人 (平成23年度)	6,000人 (平成29年度)	<b>6,809人</b> (平成26年度)	①	①
豊かな暮らしを支える公共交通の実現	まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間)	28,685人 (平成23年度)	30,500人 (平成29年度)	<b>26,155人</b> (平成26年度)	②	②

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

目標指標のうち「まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間)」は基準値を下回った。本格運行前の平成23年度(基準値)と比較して一便当たりの乗客数は増加傾向となっているが、まちなか循環バスは目標設定時に行っていた試験運行の結果を踏まえ、利用の少ない便を廃止するなど効率的な運行方法にシフトし、目標設定時と比べ便数が減っていることから目標達成は容易ではない。その中で「高齢者ゆうゆう購買促進事業」の対象を市外へ拡大するなど取組みを進めたが、利用者数は微増にとどまったことから、(株)結のまち越前おおのが発行する「食べ歩き・見て歩きマップ事業」と連携した公共交通の利用促進を図るパスポートの発行支援などさらなる対策を講じることで、引き続き目標達成に向けて取組みを促進していく。

「関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)」及び「1日当たりの歩行者通行量(休日)」は、基準値を超えており、引き続き主要事業への取組みを進めることで目標達成は可能であると見込んでいる。特に関連施設の年間入込み客数に相乗効果が期待できる「歴史的建造物保存整備事業」が完成し、開館に合わせてまちなか散策ルートに組み込むなど取り組むことで、目標達成に大きく寄与すると見込んでいる。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

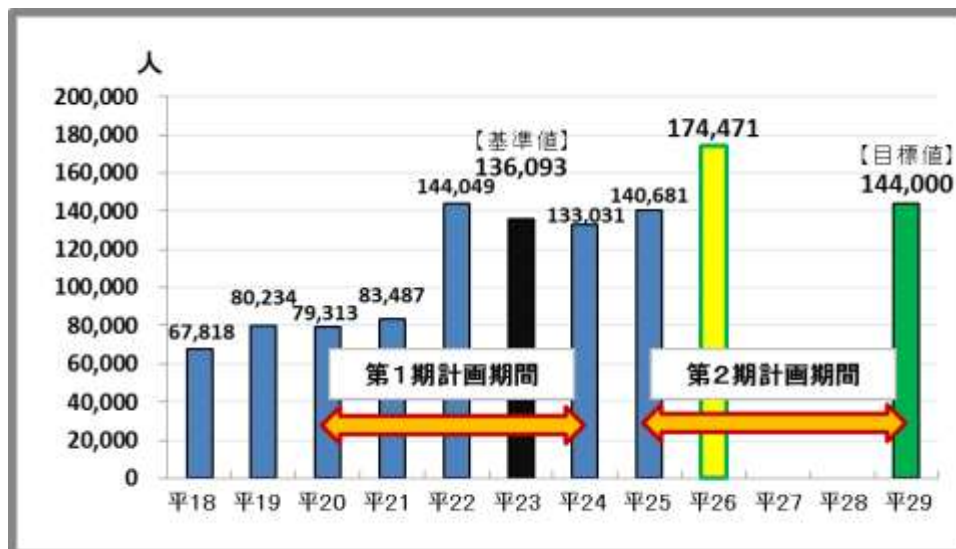
前回のフォローアップと見通しは変わっていない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

1) 「まちなか観光による交流人口の増加」(関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設))

※目標設定の考え方基本計画 P65～P67 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位)
H23	136,093 人 (基準年値)
H25	140,681 人
H26	174,471 人
H27	
H28	
H29	144,000 人 (目標値)

※調査方法: 中心市街地主要4施設の入込み客数

※調査月: 通年(1月～12月)

※調査主体: 大野市

※調査対象: 平成大野屋、越前大野城、民俗資料館、武家屋敷旧内山家

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①結の故郷おもてなし事業(大野市)

事業完了時期	【実施中】平成29年度
事業概要	まちなかと郊外の観光資源を結びつける観光ルートの開発、宿泊を伴う観光客を誘致する事業である。
事業効果及び進捗状況	隣接市にある福井県立恐竜博物館に(株)結のまち越前おおのが発行する「食べ歩きマップ」を設置し、誘客を促進したほか、まちなか遠足やまちなか散策誘致を進めた。

###### ②歴史的建造物保存整備事業(大野市)

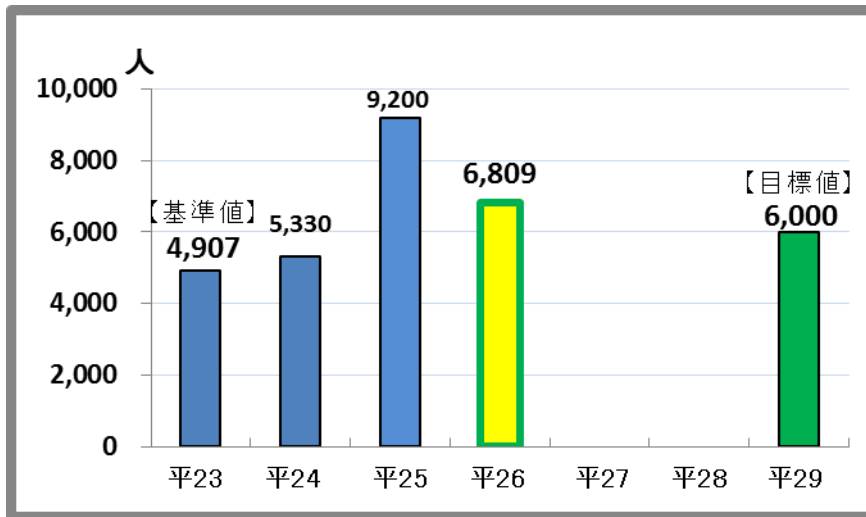
事業完了時期	【完了】平成26年度
事業概要	大野藩家老の「田村又左衛門家屋敷」の復元解体に係る調査及び保存整備、庭園・通路などを整備する事業である。
事業効果及び進捗状況	完成後を見据えて近隣の文化施設を回遊する散策ルートの設定及び誘導サインの整備を行うことで相乗効果が期待できる。平成26年度は復元ならびに外溝工事を行った。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成26年度の「関連施設の年間入込み客数（中心市街地主要4施設）」は、目標達成に寄与する事業の着実な実施に伴い、前年を上回って推移した。天空の城として注目された「越前大野城」の入館者数が昨年比で1.93倍となったほか、「結の故郷おもてなし事業」の実施により、まちなか遠足64件5,149人、まちなか散策誘致206件6,733人が訪れた。今後は、「歴史的建造物保存整備事業」の完了に合わせた散策ルートの設定などを行っていくことにより有機的に回遊する仕組みを構築していくことで、目標達成は可能であると見込んでいる。

2) 「商店街を中心としたまちなか生活の充実」（1日当たりの歩行者通行量(休日)春・秋の合計値)  
 ※目標設定の考え方基本計画 P68～P70 参照

●調査結果の推移



年度	(単位)
H23	4,907 人 (基準年値)
H25	9,200 人
H26	6,809 人
H27	
H28	
H29	6,000 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地7地点、12時間連続調査

※調査月：春（5月）及び秋（10月）

※調査主体：越前おおの中心市街地活性化協議会

※調査対象：平成大野屋前、ねんりんの里前、七間本陣付近、観光協会付近、旧Fマート前、越前大野駅前、野村醤油店前

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業（仮称）（(株)結のまち越前おおの）

事業完了時期	【未】平成29年度
事業概要	遊休不動産を活用したコミュニティカフェ等の整備を行う事業である。
事業効果及び進捗状況	増えている観光客に対して商店街で不足している業種を補うことにより滞在時間の増加が見込まれ、地域経済の活性化につなげることができる。平成26年度は、施設整備に向けた検討は行っておらず、近隣で個人経営のカフェがオープンしたため、再度、遊休不動産の利活用方策を検討することとなった。

②歴史の道再生事業及び新にぎわい商業ゾーン形成事業（大野市）

事業完了時期	【完了】平成26年度
事業概要	本町、七間、五番、横町、春日の各通りに提灯を設置して街区の景観形成を図るとともに、高校生によるチャレンジショップ設置を行うなど商店街を中心にまちなか全体に活気と賑わいを創出する事業である。
事業効果及び進捗状況	温かみのあるやわらかな光で通りを照らす提灯の設置により夜はもちろん、日中にも城下町の雰囲気印象付けることができ通りに連続性をもたせることができる。平成25年度、26年度の2か年で美濃街道沿いに60基が設置された。

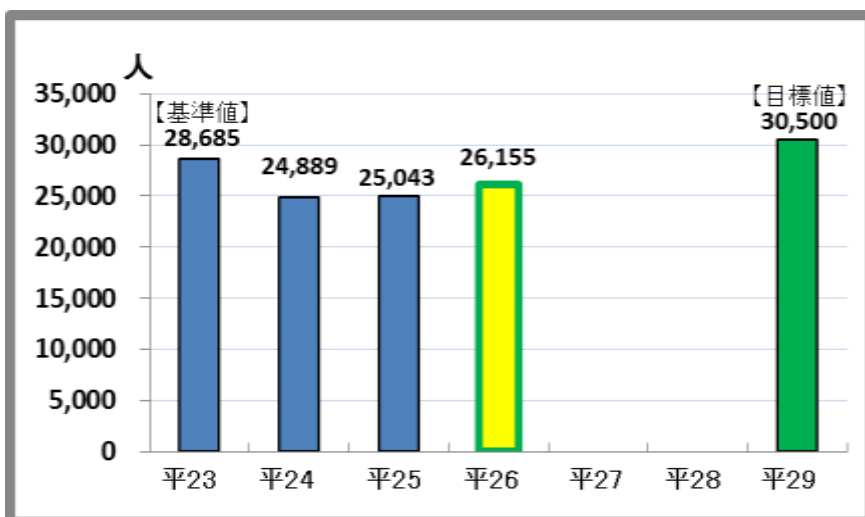
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成26年度の「1日当たりの歩行者通行量(休日) 春・秋の合計値」は目標達成に寄与するソフト事業を各商店街で実施したことなどにより、目標数値を上回った。なお、「中心市街地商店街賑わい集客施設整備事業」(仮称)は近隣で個人経営のカフェがオープンするなど、不足業種の状況が変化してきていることから、遊休不動産の利活用方を再度検討することとしているが、七間朝市のにぎわい創出の一環として「七間市場」が開かれるなど利活用に向けた取り組みは進んでおり、目標達成は可能であると見込んでいる。今後は、商店街に存在する空き店舗・空き地の解消に向けた取り組みなど対策を講じていく。

3)「豊かな暮らしを支える公共交通の実現」(まちなか循環バス、乗合タクシー利用者数(年間))

※目標設定の考え方基本計画 P70~P72 参照

●調査結果の推移



年度	(単位)
H23	28,685 人 (基準年値)
H25	25,043 人
H26	26,155 人
H27	
H28	
H29	30,500 人 (目標値)

※調査方法：まちなか循環バス、乗合タクシーの乗車人数

※調査月：通年(4月~3月)

※調査主体：大野市・運行事業者

※調査対象：利用者

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①市民ホール整備事業（大野市）

事業完了時期	【完了】平成26年度
事業概要	市役所新庁舎の新築に際し、庁舎1階に市民ホールを設けてギャラリー等として活用する事業である。
事業効果及び進捗状況	市民ホールを市民展示やイベント会場として利用するほか情報コーナーを設けることで、公共交通を活用した地域住民の交流、観光客を含む来庁者の回遊性を高めることができる。平成26年度は市民ホールの工事が完了し、平成27年1月から利用を開始した。

### ②バス停留所整備及び（仮称）城下町南広場整備事業（大野市）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	六間通り（国道476号）の歩道拡幅に伴いバス停留所を設置するとともに、市役所現庁舎跡地に防災機能を備えた多目的広場を整備する事業である。
事業効果及び進捗状況	六間通りの歩道拡幅に伴いバス停留所を設置することで公共交通を活用したまちなかへの回遊性を高めることができる。平成26年度は六間通り北側の歩道拡幅工事が行われた。市役所跡地は整備に向けた旧庁舎の解体工事を行った。

### ③高齢者ゆうゆう購買促進事業（大野商工会議所、商店街振興組合連合会、大野市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度
事業概要	協賛店にて買物またはまちなか循環バス等を利用した際に特典を付与することで消費の拡大を図る事業である。
事業効果及び進捗状況	まちなかにおける高齢者の購買促進を図ることで地域経済の活性化を図ることができる。平成26年度は対象を市外に拡大した上で実施。買物での特典のほか、まちなか循環バス等の利用促進を図るため1回乗るごとに特典を付与した。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

まちなか循環バスは本格運行を開始するにあたり、便数の再編・効率化を行った。本格運行を開始した平成24年度以降、1便当たりの乗客数は試験運行時と比較して増加しており、市民の足として定着しつつある。

「高齢者ゆうゆう購買促進事業」について、平成26年度は対象を市外に拡大し、まちなか循環バス等を利用した高齢者に特典を付与することで利用促進を図った。

今後は高齢者に分かりやすい時刻表の全戸配布をはじめ、大野商工会議所や各商店と連携したまちなかの活性化を図るサービスの提供により市民の利用を増やすほか、(株)結のまち越前おおのが発行する文化施設入館とまちなか循環バス乗車がセットになったパスポート発行を支援することにより観光客の利用促進を図ることで、目標達成に向けて取り組みを促進していく。